

山梨市観光振興計画（案）に関するパブリックコメントについて

観光課 観光企画担当

平成 29 年 2 月 14 日（火）から平成 29 年 2 月 27 日（月）までの間、山梨市観光振興計画（案）に関する市民の皆さまのご意見（パブリックコメント）を募集しました。

寄せられたご意見に対する市の考え方は次の通りです。ご協力ありがとうございました。

今後も本市の観光施策に対してご理解とご協力をよろしくお願いします。

【意見等】（原文のまま）

中心街は色々と着手していますし戸市筋はあき家活用、ライオンの森などで少しは活性化できていると思います。

洞雲寺線ぞいは、桜の咲く頃（1ヶ月は楽しめます）果実の頃、寺院の歴史、おいしい野菜、神社、子さずけ地ぞう、戸谷の観音、裏街道あとなど細かく調べると散策地によいと思うし 三富筋にもまだまだ沢山の宝があると思います。

新しい何かを作るのではなく今あるものを活用する方法、^ち智慧^えを出し進めることが良いと考えます。

【市の考え方について】

市内には数多くの観光資源（景観、果樹、文化財など）があります。観光振興計画（案）P27 でも触れているとおり、既存の観光資源を有機的に結合させることにより新たな魅力を発掘できるものと考えております。多様化する観光客のニーズに対応するために、今後も豊富な観光資源を活用し魅力ある観光地づくりに努めてまいります。

【意見等】（原文のまま）

観光振興計画（案）（以下（案）とします）では、その21頁に「市の玄関口である JR 山梨市駅前の再整備を観光に活用」とし、30頁では、JR 山梨市駅を「観光ゲートウェイ」として位置付けました。

しかし（案）では、南北自由通路の開設をきっかけとした JR 山梨市駅周辺の再開発「そのもの」を「観光アイテム化」する視点に欠けています。

JR 山梨市駅は山梨市内でもっとも人の利用する場所の一つです。この「駅、駅周辺の観光アイテム化」は忘れがちではありますが、実は非常に重要です。なぜならば、「駅に降り立った瞬間」から、当市の「光を観ていただくための仕掛け」を始める場所だからです。

ここに「駅、駅周辺の観光アイテム化」とは、駅、駅前そのものを「観光アイテム・光」ととらえることを示します。すなわち、駅のホームやベンチ、待合室、駅前広場、南北自由通路、マンホール、ガードレール、市営バスのラッピングなど、ありとあらゆるものを「観光資源」「観光アイテム・光」として活用することを指します。そして、「駅、駅周辺の観光アイテム化」は、「次の観光アイテムへつなげていくための仕掛け」としての活用も期待されるのです。

まず、「駅、駅周辺の観光アイテム化」の具体例として、駅、南北自由通路、駅前周辺を、街なか芸術館、美術館、写真館と位置づけることが挙げられます。ここでは、地元園児や児童、生徒、場合によっては全国から作品を募集し、コンクール化し、展示して楽しんでもらうことで「観光アイテム化」できると考えます。

たとえば、長野県松本市では、冬の季節に、使用済みペットボトルでもみの木を製作し、街のあちこちに配置し、コンクール化して注目されています。コンクールでなくとも、東京都日野市では、街の来歴が一目でわかる古写真を、街のあちこちに掲出して、街の散策の一助となり、好評を得ています。こうした展示を「観光アイテム」である駅、南北自由通路、駅前周辺で行い、他の観光アイテムを知ってもらう中で、「行ってみたいな」「歩いてみたいな」などと、「他の観光アイテムへつなげる仕掛け」にもして、街の中に人の流れを作り、「次の仕掛けにつなげていく」ことができます。

もう一つの「光を観ていただくための仕掛け」の例として、当市にゆかりのある著名な存在の力を借りる方法があります。たとえば、東京都調布市や鳥取県境港市では、その土地ゆかりの水木しげる先生の名作「ゲゲゲの鬼太郎」の登場人物のモニュメントが街のあちこちに配置され、散策のよきアイテムになっています。当市ゆかりの著名な存在と言えば、山梨市出身者、吉沢やすみ先生の名作「ど根性ガエル」。「ど根性ガエル」とタイアップして、一つ一つの観光アイテムを結ぶ仕掛けを施すことも有効だと考えます。「ど根性ガエル」は、国内外で高い評価を受けている名作で、ファン層も幅広く、子どもから大人まで親しめますし、外国人観光客の関心も引くことでしょう。こうした当市にゆかりのある著名な存在を観光に活用すべきだと考えます。

さらにいえば、昨今の鉄道ブーム、あるいは鉄道王・根津嘉一郎先生の存在を活かし、廃

車される鉄道車両を用いて観光案内所、物品販売所にするなどの試みも検討されるべきです。廃車車両を観光案内所や資料館として使用し、成功している例として、JR・東急渋谷駅の東急5000系車両を観光案内所として活用して東京都渋谷区の例をあげることができます。この車両は、年に数回デコレーションを変えることから、観光として注目されるだけでなく、多くの鉄道ファンも訪れています。こうした発想は、「駅、駅周辺の観光アイテム化」や「光を観ていただくための仕掛け」にもっともふさわしいものと考えます。

観光とは「光を観る」と書きます。当市は他市に劣らず、こうした「光」である観光資源に恵まれています。しかし一方、その存在や一つ一つの観光資源をつなぐ「仕掛け」という視点においては、極めて劣っています。この（案）を読んでも斬新なアイデアは少なく、もっとダイナミックで、ほかの都市にはない発想とインパクトのある施策を（案）に盛り込むよう、要望します。お金をかけず、インパクトのある「光を観ていただくための仕掛け」を街のあちこちに入れていくことは、観光振興の一助になると確信いたしますので、ここに提言いたします。

【市の考え方について】

JR 山梨市駅舎の改修や南北自由通路を整備することにより市民や乗降客の利便性が向上すると考えております。

ご提案いただいた「駅及び駅周辺に人を呼び込むための仕掛け」についてですが、市でもこの整備をきっかけに駅や駅周辺の活性化に繋がる空間形成も必要であると考えておりますので、観光振興計画（案）P30に新たな小項目として「駅周辺における賑わい空間形成の推進」を追記いたしました。

また、今回策定中の観光振興計画は基本計画であるため、駅前の具体的な活用方法について記載する性格のものではありませんが「ど根性ガエルの有効活用」など、ご提案いただきました内容につきましては、市で取り組む他の計画などで実現に向け動き出しているものもございますので、事業推進の参考にさせていただきます。

〒405-8501

山梨市小原西 843 番地

山梨市役所 観光課 観光企画担当

TEL0553 - 22 - 1111（内線 2147）